



南光台通信

第11号



着任のご挨拶

管理者兼相談支援専門員 檜山智彦

季節が巡り、日が長く日差しも強く夏の雰囲気となった今日この頃、皆様お変わりありませんでしょうか。

6月よりぴぽっと南光台センター長・相談支援専門員に着任しました。年度途中の異動であり、皆様にご迷惑をおかけしていることも多々あり申し訳ありません。前任の福地の後を引き継ぎながらより地域や皆様の生活に根差して取り組んでいきたいと思っておりますので、何卒宜しくお願いいたします。

私事になりますが、相談事業に係り、若林⇒支倉ときて今回の南光台で3ヶ所目となりました。泉区や南光台での仕事は初めてで、まだまだ分からないことや慣れないことも多いのですが、旭ヶ丘二丁目★番地で生まれ育った私としましては、色々な思い出や思い入れのある地域でもあります。

「南光幼稚園、初日怖くて中に入れず泣いて逃走したな(´_`)」 「隣の公園（今もABC公園っていうのかな？）自転車レースしたり、ワンちゃんの落とし物…に爆竹さして勇気試ししたりして遊んだな。」 「よく通った近道は今思えば人の庭と東北高校野球部の寮だったな…」 「化石をとった崖が道路になってる！」 「バナナをよく買ったスーパーまだあるけど、優しいおばちゃんの餅屋さんや、小学校帰りに冒険に出て迷子になった時5円チョコくれた駄菓子屋さん無い…」 など30年以上前の記憶や思い出が沢山懐かしく甦ります。

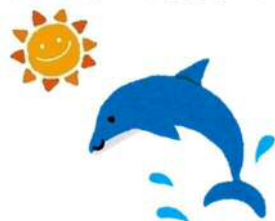
皆さんも地元や生活している地域に思い出や、エピソードはありますか？ 私は友達をうまく作れず、部屋にこもって寝転がって天井の真ん中を狙ってピンポン球を延々とぶつけ続けたり、庭の苔を世話して数メートルに広げて一人楽しんだり、部屋の壁のすき間からアリをエサで呼びよせ増やす等々思い出が自宅内に偏った時期があります。その思い出も決して悪いものではありませんし、生活の一つだったなあと思います。

でも、その人が生活していくうえで地域に出るの過ごしを望んだとき、子供でも年をとっても、しょうがいがあっても無くても、地元で馴染みがあっても無くても、楽しかったり、嬉しかったり、怖かったり、切なかったり日々の色々なさげないエピソードや思い出がどんどん重ねられる地域であってほしいなと思います。

しょうがいがある人の場合、お家でのことを手伝ってくれたり出掛けるのを手伝ってくれたりするヘルパーさん、通う場所、泊まれる場所などなど福祉サービスも必要になってきます。サービスが制度や資源としてあるだけではなくお互いに分かり合っている関係性を作っていくことも大事です。しょうがいがあっても参加できる色々なイベントやサークルも増えてきました。

加えて大事なことは地域の中にいつもある公園だったり自然だったり、お店だったり、住んでいる人だったり、町内会やサークルだったりします。ぴぽっと南光台では、障害がある人のためのヘルパー事業、レスパイト事業、相談事業を行っております。

また、地域交流スペース『すてっぴサロン』も備えています。地域の人たちが気軽につどい、交流でき、その人たちにとって思い入れのある場となれるように、どんどん活用して貰えるとうれしいし、地域の中の大事な場所になれるよう参加もしていきたいなと思います。



最後に…。昨年相模原でそのような事件が起きて1年経ちます。亡くなられた方のご冥福を心からお祈りすると共にあの事件のことを忘れず、もっともっと障害のある方の理解が進んで行けるよう、生活について考える機会が増えていくような取り組みもみんなですていければいいなと思っております。今後とも何卒宜しくお願いいたします。

発行： 社会福祉法人 つどいの家 地域生活サポートセンターぴぽっと南光台
発行人： 檜山智彦（管理者兼相談支援専門員） 発行日：2017年7月25日
住所： 〒981-8003 仙台市泉区南光台3丁目1-24
連絡先： TEL022 (779) 7341 FAX022 (779) 7342



ゆあらいふ ^{じむ} & 事務 & すてっぷ・はうす

職員異動等 ^{しよくいんいどう} の ^{れんらく} ご連絡

6月1日に福地（管理者兼相談支援専門員）と小林（事務員）が転勤し、檜山、山口が異動してまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

ゆあらいふ



ひやま ともひこ

檜山 智彦（ぴぼっと支倉より）
管理者兼相談支援専門員

健康第一で
がんばります
(^_^)/

じむ
事務



やまぐち まなみ

山口 まなみ（コペルより）
事務員

南光台の爽やかな
風を感じながら
爽やかに
仕事をします！



すてっぷ・はうす（専任介護人）の 加藤 沙織（旧姓：鈴木）が、
8月より産休、育休のためしばらくお休みいたします。



仙台市障害者家族支援等推進事業連絡協議会 研修委員会のこと

この協議会は、平成 23 年度に発足し、仙台市で障害者家族支援推進事業（通称：レスパイトサービス）を実施する事業所間の連携を密にして、レスパイトサービスの充実を図るためのものです。

協議会の中では、これに関わる職員のスキルアップをめざして毎年研修を実施しています。平成 23 年度の他県から講師を迎え『地域生活を支援するうえで根底に持つべきおもしろい、行政機関とのつながり、地域生活を支えるための人材育成』についての講演に始まり、レスパイト事業の今後を考えたり、対人援助を担う人が元気であるための講演、グループディスカッション、視察研修などを実践してきました。

今年度は、平成 24 年度に一度実践した、『事業所の強みの紹介・プレゼンテーション』に決定しました。実施から数年が経過し、職員や利用者、家族にも変化がありました。それぞれの事業所は、限られた時間、限られた人員で緊急時等のニーズに応えながらも、サービスを利用している利用者さんには楽しい時間を提供しようと努力を重ね、工夫を凝らし、地域とのつながりをつくり、通常業務をこなし、他事業所と連携しながら事業を継続してきました。

今年度の研修はどのようなものにしようかと案を出しているとき、『自分のいる事業所はどんな特色を持ち、【ここが強み】とアピールできるのか。また、それをどのように他の人に伝えるか。プレゼンテーションという形をとって、その技術を試してみようか』そんな意見が出たのです。他事業所と『強み』を共有する場をもつことで、新たな発見があったり、自分たちのできていることを再確認したり、刺激になったり。また、人に伝わるプレゼンテーションの準備をすることで、介護人募集や説明会の時に活かしたり。

8月末に実施予定のこの研修が、今後へのさらなるモチベーションになることを期待し、実施、参加してきます。またこの場でご報告できればと思います。





強度行動障害支援者養成研修 報告

◆基礎編◆

参加者：佐伯美佳子

「強度行動障害」って何だと思いますか？

例えば「噛みつく」「叩く」「自分を傷つける」などの行為も「強度行動障害」と、言うのですが、自分の気持ちを上手く言葉で伝えられない方々に多いのも「強度行動障害」です。例えば、自分の気持ちが伝わらない苛立ちがそのような行動になってしまうのであれば、これは受け手の問題でもあるのです。「この人は社会のルールが分からない人だから」「この人はコミュニケーションの取れない人だから」と、相手が一生懸命に投げかけていることを受け取ろうとせず、相手の気持ちを無視してしまったり、相手の行動を先回りしてその方が生活しやすい環境を整えて問題行動だけを起こさせないように支援していくのはどうでしょう？「自分の気持ちを上手く伝える」と、いう成功体験は永遠に経験できないのです。

成功体験の積み重ねはとても大切です。その人それぞれの成長の幅があり、ゆっくりゆっくりかもしれないけどきっと成長していくことができます。「一緒に少しずつ進んで行こう」と、いう気持ちが大切なのだと思います。

◆実践編◆

参加者：児玉文昭

「利用者さんの支援を行っているのは自分だけではなく、様々な業種の方々と一緒に支援していることを忘れないでください」

そんな言葉で講義が始まりました。私たち福祉のプロとしての大事な業務の一つに『記録を残す』という事があります。記録は、観察の視点や表現の仕方によって読む人の印象が変わる物では意味がありません。情報の共有が出来ていて、支援の課題が明確であり、目標や課題に沿ったモニタリングを行うことで新たな支援が生まれるという『支援の科学性』に基づいて作成すると、その方の状況が正しく伝わる記録となります。

グループワークの実践として学んだことはアセスメント（情報収集）が大事だという事です。「支援の6つの原則」として、①構造化された環境の中で②医療と連携しながら③リラックスできる強い刺激を避けた場所で④一貫した対応ができるチーム作り⑤自尊心を持ちひとりでできる活動を増やす⑥地域で継続的にできる体制作り、というものがあります。私たちのグループでは「その日の天候、環境によって本人の気分、体調に応じて支援していくことがプロではないか？」との意見でまとまりました。その中で、支援に迷い記録を読み返した時に記録の在り方の大切さを実感するのではないかと思います。

これから、`支援の科学性、や `アセスメント、を大切にしながら『利用者さんが自身で出来ることを一つでも多く見つけ出し、導いていく』ことをひとつの目標として支援していきたいと思います。



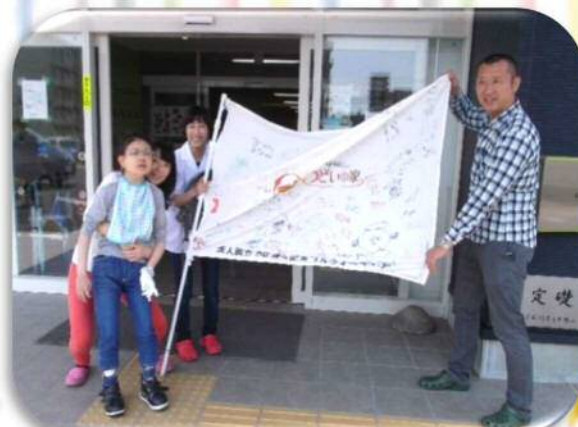
法人設立25周年記念フルウォーキング

法人設立25周年をお祝いして、利用者・職員みんなでつなぐ『フルウォーキング〜つなぐプロジェクト』。つどいの家の13事業所間を、利用者・職員がリレー方式で練り歩き、つどいの家や法人設立25周年をPRします。

つどいの家コペル→つどいの家アプリ→八木山つどいの家→ぴぼっと支倉→ひかりはうす→さくらはうすと順に旗をつなぎ、6月18日(日)ぴぼっと南光台を出発しました。目指すは幸町にある仙台つどいの家。さくらはうすから引き継いだ「つどいの家の旗」を掲げ、約4キロの道のりを歩きました。参加した利用者さんは、普段からすてっぷ・はうすを利用している方で、介護人と南光台周辺の散歩を楽しみにしています。今回はいつもと違う散歩コースという事もあり、いつもより張り切って元気よく歩きました。

仙台つどいの家が見えてきた時、近所の子どもたちが近づいてきて「何してるの〜？」と元気に声を掛けてくれました。つどいの家をみんなに知ってもらう為に、ぴぼっと南光台から歩いて来たことを伝え、「がんばってね〜！」と元気いっぱいの応援を受けました。子どもたちの応援もあり、無事に仙台つどいの家へたどり着くことが出来ました。まだ先は長いですが、ゴール目指して頑張るぞ〜！！

記：ぺんたすヘルパー 高橋和也



編集後記

夏になり暑い日が続いています。最近、レスリングの伊調馨さんから棋士の藤井聡太四段へエールを送った中で、「挑戦こそ連勝の極意」という印象に残った言葉があります。私自身も夏の暑さで何事にも億劫になりがちですが、負けずに仕事やプライベートでの挑戦など、色々なことに挑戦し、継続していけたらと思います。

記：ぺんたすヘルパー 長谷川